

向学館通信

2008・3・27

新学年のはじめに1年の計画を立てよう！

その日暮らしになったり、やらなければならないことを後回しにして、どうでもいいことばかり先にするような生活はやめる。大きな目標を立てて、計画をつくり、時間を大切に。これができるれば人生が変わります！

祝

全国高校囲碁選抜大会で、高山辺柚子さん（堀川高校）が優勝！

全国高校囲碁選抜大会が3月22,23日に行われ、女子の部（9路盤戦）で、当塾の高山辺さんが全国優勝されました。すばらしい栄誉に心から祝福します。

無気力、無目標、社会の出来事にも無関心の高校生

高校3年になっても志望校も決まらず、何をしたいかわからない、受験勉強にも熱が入らない、といった生徒がこれまでもいました（なぜか、男子に多いようです）。勉強はしたくないのに、4年制大学へ行きたいといいます。どんな大学がいいのか、どんな学部・学科へ進みたいのかなど、進路の具体的なことは考えていないようです。親御さんは、どうせ4年間遊ぶつもりだろうと考えていても、子どもが大学へ行きたいという希望をかなえてやりたいという親心があります。子どもは、そういう親心を見透かしたように、のんびりと（あるいは、だらだらと）日を送っているようです。親御さんのお困りの心情は、痛いほど伝わってきます。

面談などでこのようなケースの相談を受けることがしばしばありました。私もどうしていいかわかりません。このような生徒の将来がすごく心配です。だから、「格差社会」のことや「正社員と非正社員との格差」など、近年進んできた社会的弱者に対する差別的な待遇の実態を新聞などで知る限りのことを、生徒に話しています。しかし、

正社員にくらべて生涯賃金が1億円以上も低い非正社員の立場になったらどうするんだ、そうならないようにしなくては、といった話をしても、あまり興味を示さないようです。

このような子が、毎年、何人かいますが、私は、その親御さんたちが困っているだけでなく、大きく言えば「社会的な損失」だと考えます。人が教育を受けるのは、その個人にとっては「自分のため」と思っているかもしれませんが、結果として仕事を通じて「社会に貢献する」ことに通じるのだと思います。せっかくここまで育ててくれたのに、自分から社会的な役割を放棄するのは、非常にもったいないことだと思います。もっと積極的に社会にかかわれる人になって、「社会のための」役割を担ってもらいたいと思っています。教育はそのためにあるのです。

どなたか、いい対策があれば、お教えいただきたいと思っています。

能力の基礎は、単純計算などで育ちません

小学生の親御さんとお話すると、小さい頃から計算練習をたくさんやらせてきたので、算数の基礎はできていると思っていたが、高学年になって文章題がわからなくなって、困っています、といった話をよく聞きます。

最近、「百マス計算」とか計算ドリルなど、子どもたちに計算練習をさせる教材がもてはやされてきました（とくにマスコミなんかで）。塾の中にも、算数では主として計算をやらせる塾もあります。こういう風潮や環境から、計算をしっかりとやらせることが「頭をよくする基礎」になる、という誤った結論を導き出している方がかなり多くなっているような気がします。

算数（数学）は、たしかに低学年の間は計算のウエイトが高いし、計算がしっかりしていることは大事です。しかし、高学年から中学、高校へと進むと、応用力や図形を見抜く力などが重要になってきます。そして、このような図形問題を解く力や文章題を解く力は、計算練習で鍛えられるものではありません。計算のような単純な能力ではなくもっと複雑な能力を必要としています。小さい時に計算のような単純なことに時間をかけすぎるのは、もっと複雑なことを理解する能力を育てる機会を失わせることになる場合があります。注意しましょう。